

日本ユネスコ国内委員会の活動に関する報告(自然科学・人文社会科学)  
(平成 26 年 2 月 10 日～平成 27 年 4 月 7 日)

※所属・職名等は当時のもの

## 政府間海洋学委員会 (IOC)

### WESTPAC 第 9 回国際科学シンポジウム

平成 26 年 4 月 22 日～25 日にニャチャン(ベトナム)で WESTPAC 第 9 回国際科学シンポジウムが「西太平洋域の繁栄に向けた健全な海洋の実現～科学的な課題と可能な方策～」をテーマに開催されました。21 か国から約 550 名が参加、約 500 件の口頭・ポスター発表が実施され、過去最大規模となりました。日本からは、道田 豊 IOC 副議長、植松 光夫 IOC 分科会主査、安藤 健太郎 WESTPAC 諮問グループメンバー、西田 周平 ISSC 委員、福代 康夫前 WESTPAC 副議長らが参加しました。



WESTPAC Outstanding Scientist Award 受賞者

シンポジウムに合わせ、西太平洋地域にある 18 の研究機関の代表が集まり、WESTPAC 及び周辺海域の研究や観測の強化方策について議論を行う「研究所長フォーラム」が開催されました。道田 IOC 副議長が共同議長を務め、今後の方策に関する共同文書が採択されました。

また、今回は WESTPAC 地域の海洋学の発展に長年にわたり貢献してきた研究者の功労表彰が行われ、日本からは福代前 WESTPAC 副議長及び道田 IOC 副議長の 2 名が受賞しました。さらに、35 歳以下の研究者の口頭発表及びポスター発表を対象とした若手研究者賞を日本の若手研究者 2 名 (JAMSTEC 中嶋亮太氏及び山形大 高橋和也氏) が受賞しました。

### 第 47 回政府間海洋学委員会 (IOC) 執行理事会

第 47 回政府間海洋学委員会 (IOC) 執行理事会が平成 26 年 7 月 1 日～4 日にパリ(フランス)にて開催され、我が国からは植松 光夫 日本ユネスコ国内委員会委員・IOC 分科会主査(団長)、道田 豊 日本ユネスコ国内委員会調査委員・IOC 副議長、小松 輝久 東京大学大気海洋研究所准教授、北沢 一宏 海洋研究開発機構アドバイザー、河野 健 海洋研究開発機構地球環境観測研究開発センター長らが出席しました。

理事会では、津波対策及び早期警戒システム、キャパシティディベロップメント戦略計画、並びに IOC 事業の今後について議論が行われました。我が国はこれまで IOC 事業に豊富な専門性と経験を有しており、今後も引き続き貢献を行っていくこととしており、各種事業について各国と積極的に情報交換を行いました。第 28 回総会及び第 48 回執行理事会は、ユネスコ本部で平成 27 年 6 月 16 日～25 日に開催される予定です。

## IOC/WESTPAC 地域海洋学トレーニングセンター(RTRC)設置に関するワークショップ

平成 26 年 11 月 18 日～19 日に、東京大学大気海洋研究所で IOC/WESTPAC における地域海洋学トレーニングセンター設置に関するワークショップが開催され、ユネスコ IOC 及び WESTPAC をはじめ 10 か国から代表者が参加し、西太平洋沿岸諸国の海洋学分野における科学知識の増進及び人材養成に貢献するため、日本における地域海洋学トレーニングセンターの設置に向けた検討が進められました。



提供: 東京大学大気海洋研究所

地域海洋学トレーニングセンターにおいては、今後の地域海洋学を担い、地球規模の諸問題に対処し持続可能な社会づくりに貢献していく人材の育成が期待されます。

## 国際水文学計画 (IHP)

### 第 21 回国際水文学計画 (IHP) 政府間理事会



第 21 回国際水文学計画 (IHP) 政府間理事会が平成 26 年 6 月 18 日～20 日にかけてパリ(フランス)にて開催され、我が国からは寶 馨 日本ユネスコ国内委員会委員・IHP 分科会主査(团长)、立川 康人 日本ユネスコ国内委員会調査委員 (IHP)、竹内 邦良 水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) センター長、鈴木 篤 日本ユネスコ国内委員会調査委員 (IHP)、村瀬 勝彦 ICHARM 上席研究員、門田 公秀 ユネスコ代表部

公使参事官、北郷 太郎 ユネスコ代表部参事官が出席しました。

次期議長及び副議長の選挙等が行われ、引き続き各議題の審議が行われました。外部資金についての審議では、寶团长から、信託基金等による水科学分野での地域協力、気候変動や災害等に対して学際的、分野横断的な科学協力を強化していきたい旨の発言を行い、このほかにも、ユネスコ IHP40 周年記念についての審議等、様々な議題について活発な討論が行われました。

### 世界水の日記念式典『水とエネルギーのつながり』

平成 26 年 3 月 21 日に東京・国連大学で、国連水関連機関調整委員会 (UN-Water) 主催の「2014 年世界水の日記念式典『水とエネルギーのつながり』」が開催されました。国連機関主催の世界水の日主要記念式典としては、日本で初めての開催となりました。

式典では、「国連水と衛生に関する諮問委員会」名誉総裁である皇太子殿下のお言葉に続き、太田昭宏国土交通大臣が日本の水に対する考え方と水技術及び日本での経験を踏まえた国際貢献等に関して講演を行いました。ICHARM からは、竹内 ICHARM センター長が水とエネルギーのつながりについて日本の経験を報告しました。デイビッド・マロン国連大学学長、ミシェル・ジャロー WMO 事務局長とともに、ユネスコからはハンス・ドヴィルユネスコ事務次長が開会の挨拶を行いました。また、国連水アセスメント計画 (UN WWAP) による世界水発展報告書 (WWDR) の発表式ではブランカ・ヒメネス・シスネロスユネスコ水科学部長による司会の下、世界水発展報告書第 4 版「水とエネルギー」が発表され、松浦日仏会館理事長 (元ユネスコ事務局長) が閉会の挨拶を行いました。

た。

## 第 24 回 IHP トレーニングコース

第 24 回ユネスコ国際水文学 (IHP) トレーニング・コース「Forest Hydrology - Conservation of Forest, Soil and Water Resource (森林水文学 - 森・土・水の保全のために)」が平成 26 年 11 月 24 日～12 月 7 日に、名古屋大学にて開催されました。



東京大学生態水文研究所愛知県演習林見学  
提供:名古屋大学

本プログラムは、ユネスコ・ジャカルタ事務所に日本が拠出している信託基金及び政府開発援助ユネスコ活動費補助金により、ジャカルタ事務所と名古屋大学地球水循環研究センター・京都大学防災研究所水資源環境研究センター共催の下、アジア・太平洋地域の人材育成のため、1991 (平成 3) 年より毎年実施されています。毎回 5～10 名の同地域の IHP 事業を担う水分野の専門家の人材育成を行っており、これまでに 170 名以上の研修生を受け入れています。講義は全てテレビ会議方式を利用し、ジャカルタなどの数か所の会場で同時放映されました。

## 第 22 回 IHP 東南アジア太平洋地域運営委員会 (RSC)

平成 26 年 11 月 13 日～14 日に、ジョグジャカルタ (インドネシア) で第 22 回 IHP 東南アジア太平洋地域運営委員会 (RSC) が開催されました。本委員会は寶馨日本ユネスコ国内委員会委員・IHP 分科会主査が議長を、立川 康人日本ユネスコ国内委員会調査委員が事務局長を務めています。

本委員会には 11 か国の IHP 代表、ユネスコ・ジャカルタ事務所、北京事務所及びイスラマバード事務所から出席があり、各国の IHP 活動の取組状況が報告されるとともに、ユネスコセンターの活動報告、河川カタログ後継プロジェクトの検討、第 7 回世界水フォーラムの開催準備等に関するグループ討議と報告などが活発に行われました。



提供:IHP 東南アジア太平洋地域運営委員会

## 人間と生物圏(MAB)計画

平成 26 年 6 月 10 日～13 日、ヨンショーピン(スウェーデン)で第 26 回人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会が開催され、我が国から生物圏保存地域(国内呼称:ユネスコエコパーク)に推薦していた「只見」(福島県)及び「南アルプス」(山梨県、長野県、静岡県)の新規登録並びに「志賀高原」(群馬県、長野県)の拡張登録が決定されました。これにより、我が国のユネスコエコパークは、合わせて計 7 か所となりました。



白根三山  
提供:南アルプス市

(我が国からの出席者:松田 裕之 日本ユネスコ国内委員会調査委員(MAB 分科会)、野田 孝夫 文部科学省ユネスコ協力官 ほか)



地獄谷野猿公苑  
提供:山ノ内町

ユネスコエコパークの登録地は、ユネスコエコパーク世界ネットワークに登録されます。ユネスコという国際機関からの世界的な評価を受けることにより、自然環境の保全や自然と人間社会との共生に関する地域の取組を、国際的にも発信し、ネットワークを通じて情報の共有化が図られることや、それによりこれらの取組がより一層推進されることが期待されます。

また、地域における持続可能な開発に関する学習の場としての活用、自然環境の保全や持続可能な資源の利活用に関する普及啓発、持続可能な社会の構築のための人材育成への貢献も併せて期待されます。

### 我が国のユネスコエコパーク

- 1980 年(昭和 55 年) 「志賀高原」(群馬県、長野県)、「白山」(石川県、岐阜県、富山県、福井県)、「大台ヶ原・大峯山」(奈良県、三重県)、「屋久島」(鹿児島県)登録
- 2012 年(平成 24 年) 「綾」(宮崎県)登録
- 2014 年(平成 26 年) 「只見」(福島県)、「南アルプス」(山梨県、長野県、静岡県)新規登録、「志賀高原」(群馬県、長野県)拡張登録\*

\*「拡張登録」とは、1995(平成 7)年にユネスコエコパークの機能として、「経済と社会の発展」が追加されたため、それ以前に登録されたユネスコエコパークについて、その機能を果たす「移行地域」を追加するものです。

## 第1回ユネスコエコパーク全国サミット in 志賀高原

平成26年9月19日～20日、昨年6月に拡張登録が決定した志賀高原ユネスコエコパークにおいて「第1回ユネスコエコパーク全国サミット in 志賀高原」が開催されました。初日には、日本ユネスコ国内委員会人間と生物圏(MAB)計画分科会の鈴木 邦雄主査から、竹節 義孝山ノ内町長に、イリナ・ボコバユネスコ事務局長の署名が入ったユネスコエコパーク認定証が手渡されました。

本サミットでは、国内のユネスコエコパーク(只見、志賀高原、白山、南アルプス、大台ヶ原・大峯山、綾)から関係者が一堂に会し、各地域の特色ある取組の共有や、活発な意見交換などが行われました。ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会との共生)を目的とした取組です。本サミットを契機として、ユネスコエコパーク間の連携が促進され、持続可能な社会の構築に向けたモデルケースとなる取組が一層展開されることが期待されます。



提供:山ノ内町

## 南アルプスユネスコエコパーク 登録証授与記念式典

平成27年2月14日、南アルプスユネスコエコパークにおいて「南アルプスユネスコエコパーク登録証授与記念式典」が開催されました。本式典においては、南アルプスユネスコエコパークを構成する3県10市町村の代表者に対して登録証の授与が行われました。また、南アルプスユネスコエコパークの魅力について、増澤 武弘ユネスコエコパーク登録検討委員会委員長より講演がありました。さらに、構成自治体の一つである大鹿村に伝承されている大鹿歌舞伎の公演が行われるなど、南アルプスユネスコエコパークの魅力を十分に堪能できるイベントとなりました。



提供:南アルプス世界自然遺産登録推進協議会

## その他

### ロレアル・ユネスコ女性科学賞



稲葉カヨ教授



小澤未央研究員

平成 26 年 3 月 3 日、パリのユネスコ及びロレアル・グループから、女性研究者を対象とした世界的な賞である「ロレアル・ユネスコ女性科学賞」を、稲葉カヨ京都大学副学長(男女共同参画担当)・教授が、また、「国際奨学金」を小澤未央九州大学医学研究院学術研究員が授与されることが発表されました。1998 年、ロレアル・グループとユネスコは、科学研究分野における女性の地位向上を目的として、協定を締結の上、同賞及び奨学金を設けました。

「女性科学賞」は、科学の分野で目覚ましい業績を挙げた、世界の優れた女性研究者 5 名を表彰するものであり、稲葉教授は、免疫システムにおける「樹状細胞」の重要な役割を解明し、細胞療法に大きな進展をもたらした、新たな抗がん治療の確立への端緒を開いた功績を評価されました。前年の黒田玲子日本ユネスコ国内委員会委員(東京理科大学教授)に続き、我が国からは 5 人目の受賞となります。

「国際奨学金」は、生命科学分野において将来が期待される、世界の若手女性研究者 15 名の海外研究活動を支援するものであり、小澤研究員は、高齢者の認知機能に関する調査を行い、食事により認知症を予防できるとした研究内容を評価されました。我が国の研究者に対しては初めての授与であり、更なる

活躍が期待されています。

### ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞

平成 26 年 7 月 3 日、「ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」の授賞式が駐日フランス大使公邸で開催され、将来の活躍が期待される有望な女性若手研究者 4 名が表彰されました。また、WHO のメディカルオフィサーとして女性研究者のロールモデルとなる活躍をしている、進藤奈邦子さんが特別賞を受賞しました。授賞式では小渕優子衆議院文部科学委員長が来賓として挨拶を述べられたほか、日本ユネスコ国内委員会事務総長である加藤重治国際統括官から挨拶と表彰状の授与がありました。



日本奨励賞を受賞されたのは、中住友香さん(産業技術総合研究所)、八木亜樹子さん(名古屋大学大学院)、垣本由布さん(東海大学医学部)、田淵紗和子さん(総合研究大学院大学)です。

### 「阿蘇」の世界ジオパーク登録決定

平成 26 年 9 月、カナダで開催された国際会議において、「阿蘇」の世界ジオパークへの登録が決定されました。これにより、我が国における世界ジオパークは、洞爺湖有珠山、糸魚川、山陰海岸、島原半島、室戸、隠岐、阿蘇の 7 地域となりました。

世界ジオパークは、環境教育と研究の場を提供するとともに、地域の持続可能な経済開発に資することを目的の一つとしています。ユネスコが実施する事業ではありませんが、協力関係にあり、ユネスコの理念に沿う事業として、今後の更なる活用が注目されます。

## 国際会議等一覧

会議等名称	開催日程 (開催地)	主な内容	我が国出席者
第 14 回 WMO/IOC 合同海洋・海上気象 専 門 委 員 会 (JCOMM)国内連絡 会	26.3.13 (東京)	JCOMM 関連の国際的動向につ いて報告が行われた。また、アル ゴ、船舶、ブイ等海洋の現場観測 の実施・観測結果の通報状況等 の情報交換を行った。	気象庁、海上保安 庁、防衛省、海洋研 究開発機構、水産 総合研究センター 及び東京大学関係 官
ICG/PTWS 南シナ 海地域作業部会第 3 回会合(WG-SCS-III) 及び南シナ海地域 津波情報センタータ スクチーム会合	26.4.7-9(香 港・中国)	南シナ海における地域津波警報 センター設立に向け、情報の内容 等につき検討が行われた。また、 域内でのデータ共有、トレーニング 等の開催について議論が行われ た。	小泉岳司気象庁地 震火山部地震津波 監視課国際地震津 波情報調整官、上 山哲幸同国際津波 情報係長
第 26 回人間と生物 圏(MAB)計画国際 調整理事会	26.6.10-13 (ヨンショー ピン・スウェ ーデン)	生物圏保存地域(国内呼称:ユネ スコエコパーク)の新規登録につ いての審議等。我が国から推薦し ていた「只見」(福島県)及び「南ア ルプス」(山梨県、長野県、静岡 県)の新規登録並びに「志賀高原」 (群馬県、長野県)の拡張登録が 決定された。	松田裕之日本ユネ スコ国内委員会調 査委員、野田孝夫 文部科学省ユネス コ協力官ほか
第 21 回国際水文学 計画(IHP)政府間理 事会	26.6.18 -20 (パリ・フラン ス)	次期議長及び副議長の選出があ った。また、外部資金に係る活動 報告や IHP40 周年記念などにつ いて議論が行われた。	寶馨日本ユネス コ国内委員会委員 ・IHP 分科会主査、立 川 康人日本ユネス コ国内委員会調査 委員、門田 公秀ユ ネスコ代表部公使 参事官ほか
第 47 回政府間海洋 学委員会(IOC)執行 理事会	26.7.1-4 (パリ・フラン ス)	津波対策及び早期警戒システム、 キャパシティディベロップメント戦 略計画並びに IOC 事業の今後に ついて議論が行われた。	植松光夫日本ユネ スコ国内委員会委 員・IOC 分科会主 査、道田豊日本ユネ スコ国内委員会調 査委員・IOC 副議長 ほか

## 国内委員会会議

年月日	会 議 名	主 な 内 容
26.3.11	第 28 回 MAB 計画分科会(メ ール審議)	・大台ヶ原・大峰山ユネスコエコパークの漢字表記の 変更について

26.5.7	第29回MAB計画分科会(メール審議)	・MAB 計画国際諮問委員会勧告への対応について
26.5.20	第30回MAB計画分科会	・第26回MAB計画国際調整理事会への対応について
26.6.4	第29回IHP分科会	・第21回IHP政府間理事会への対応について
26.6.19	第64回IOC分科会	・第47回IOC執行理事会への対応について
26.9.8	第31回MAB計画分科会	・ユネスコエコパークについて、平成27年申請に向けて検討を行っている団体からの申請書概要に関する審議